全日本私塾教育ネットワーク

# 私塾ネット広報

http://www.shijuku.net

第14号（平成18年４月号）

全国研修大会（2006.4.23）記念号

## 満開や　開かぬ花の　一つなし

私塾ネット　副理事長　梶原　賢治

# 平成１８年度入試を終えて

## 青森県の入試を終えて

私塾ネット東北代表　志学塾　畑山　篤

３月３日(金)県立高校前期入試の合格者発表の日。その日の午後４時頃、登塾した小学５年生の女の子が「先生、学校の勉強だけでは高校には入れないんでしょう！？」と話しかけてきた。私はハッとした。後期入試、いわゆる特色化入試がこのように小学生には伝わっているのかと。

青森県では２月２２日の前期入試と３月１４日の後期入試という、いわゆる複数受験化という県立高校入試改革が行われ、初めての受験制度での入試を終えた。例年より３週間程早い前期入試では、５教科の学科試験が行われ、各高校の定員の７５％～９０％の合格者を決め、残りの定員はいわゆる特色化入試と呼ばれる後期試験で決めるという制度になった。前期が学科入試で後期が特色化入試という制度は全国に先駆けての改革だと聞いている。

地元では一年程前からの県教育委員会からの発表のみが報道され、「行ける学校から行きたい学校へ」というスローガンからくるイメージだけが先行したように思われる。今振り返ってみれば、「行きたい学校へ挑戦してみよう。前期がダメでも後期があるから。」という誰が言いだしたかわからない甘い呼びかけが中学校の現場には漂っていたと思われる。

３月３日(金)午前９時。前期入試の合格者が発表された。県立高校の定員で集計すると受験生の３分の２が合格し、３分の１が不合格に。不合格者は翌週の６日(月)～８日(水)で後期の受験校へ出願し、その週末の１１日(土)または１２日(日)で卒業式を迎え、卒業後の１４日(火)に特色化入試に挑んだ。小論文・作文、自己志願理由書、自己ＰＲ・面接という特色化入試。「どこが特色か？入試」と駄洒落でも言いたくなる想定内の内容…。結果的には内申点の比重に特色があったということだろうか。

今回の入試では、前期入試で落ちた子はまるで罰点をつけられたようで、暗い気持ちで過ごすしかなかった。「後期に向けて頑張るぞ」とか「後期があってよかった」等とは到底思えない状況だった。前期入試の合否結果が発表になってから後期入試までの約１０日間余り。各中学校では４時間も卒業式の練習を行い、後期入試対策は作文のみで1時間だけの中学校、放課後少しだけの中学校等々、しかも課題は出してくれるが指導は担任の先生が「漢字違ってるよ」程度のアドバイスだけだった。

後期入試に回った子供たちを見ていて、去年までの推薦入試の方がまだましだと思った。推薦入試では各中学校での校内選考の過程が不透明だという批判があったが、「学校代表のように選ばれた者がチャレンジして」結果「合格」または「惜しくも不合格」。推薦入試でダメだった子供たちでも一般入試が近づくにつれて「いよいよ本番だ」と思えた。今年は「前期不合格者」は明らかに「敗者」だった。少なくとも卒業式までの学校での生活は大変だった。後期入試にもっと集中したかっただろう。晴れて卒業式に臨みたかっただろう。

後期入試を断念した人数は前期不合格者の３０％だった。後期入試の受験をあきらめた一人の女の子は「二度も不合格にはなりたくないから」と言った。誰のための入試制度改革だったのだろうか。小学生から「ゆとり教育」の中で育った子供たちに、突然改革の波が押し寄せる。学習塾ではこの一年間、「今年は前期入試の競争率が上がり厳しくなるぞ！合否の可能性が読めない後期入試に回れば悲惨だぞ！」と“警報”を発令し続けたが、昨年秋頃でさえ保護者からの声は「今年の受験生は２回受験出来てよくなりましたね。」だった。それから、半年経って小学生が「学校の勉強だけでは高校には入れないんでしょう！？」と思っている。「学校の勉強だけではムリ」と思わせる背景を考えなくてはならない。

子供たちは「学校の勉強だけ」でも一所懸命取り組むべきだと私は考える。“世の中”を教えるのに

理科と社会があればかなりの内容をカバーできる。その上、技術、家庭、美術、音楽、体育もある。もし、学校で習う教科以外に入試で出題される勉強があるならば、「初めからそう言ってよ！」と子供たちは言うのではないだろうか。学校教育というものは“世の中”を外国語を含めた９教科に区分して教えているのではないだろうか。

確かに“昔”、青森県でも「受験勉強で子供がかわいそうだ」、「学校の勉強は社会に出ても役立たない」等の批判があった。そして、「ゆとり教育」の時代を迎え、教科間の壁を飛び越える総合学習が加わった。算数や国語や理科や社会等々の教科の内容を疎かにするためではなかっただろう。青森県の特色化入試はぜひ「学校の勉強」をベースにした、さらに工夫した内容になってもらいたい。

ゲームやインターネット等々３Ｄのビジュアルが子供たちの興味を惹くライフスタイルの中で、黒板や紙教材が「元来の勉強の楽しさ」を子供たちに伝えることは学校現場では易しいことではないだろう。だからと言って、学校で習う教科の成績を積み上げた「内申点」よりも英検、漢検、数検等々の資格や生徒会長、部長、体育祭実行委員長等々の肩書きが高い点数になってしまうような入試ばかりになってしまったら…。「行ける学校から行きたい学校へ」と子供たちに“挑戦”を呼びかけながら、「求める生徒像」に合致した子供たちが「不公平感」や「不透明感」を抱いてしまっては元も子もない。

特色化入試により「ゆとり教育」にどっぷり浸かった子供たちの意欲・関心を引き出したいなら、わかりやすく「学校の勉強」を頑張ろうと子供たちに伝え、「元来の勉強の楽しさ」を教えてあげるべきだ。そのためには、小学校からの教材研究、教員の指導技術の研鑽が不可欠であり、如何に指導者が興味を持たせるのか、導くのかにかかっている。やはり、ここからは我々学習塾の役目かも知れない。今年も一人でも多くの子供たちの「想像力」に火をつける授業を続けたい。

## 平成18年度栃木県内高校入試の総括と展望!!
## —栃木—

慶應受験会　菅谷　友豊香

### 私立高校入試

まだ松の内も明けない1月5日、近隣県に先駆けて栃木県の私立高校入試は始まった。毎年受験スタート日は変わることはないが、私立高校の数が少ないことから競合する高校の試験日重複を避けるため、各校共に受験日は変更する。特色ある高校学科・コースに人気傾向があり、特にここ数年は難関国立大、医・歯・薬学への進学に向け様々なコースが編成される等、工夫を試みる姿が窺われる。

数千人の受験生を集めている大規模校は、試験も数日に渡って実施される。第1回入試でほとんどの受験生は合格を決め、県立高校へと挑むのが一般的入試パターン。多くはないが一月下旬より各校で実施される第２回入試に再チャレンジする受験生も見られる。

### 県立高校入試

県立高校一般入試は3月6日に行われた。学力検査は国･社･数･理･英の5教科で、全高校同問題。主要3教科の国・数・英は50分、社･理は45分配点は記述式問題に多いことが特徴。(作文20点、リスニング30点を含む)　各教科共に学習指導要領に基づいた、基礎・基本的事項の理解度を重視した良問が多い。

難易度はいずれも例年並みだが今年は特にゆとり教育による学力低下の危機感からか、
身近な素材を活かした出題を通して思考力や表現力を評価する傾向が見られた。数学では毎年、規則性が最先端の難問として取り上げられているが今年も凝った出題だった。

各校が独自の裁量で行う教科内傾斜配点は、宇都宮 宇都宮女子 栃木 真岡が採用、応用問題や論述問題を重視し配点を高くしている。

### 東大合格公立一位

今春、宇都宮高校(県内トップ)は東京大学に28名(内現役22名)の合格者を輩出した。公立高校では東大合格Ｎｏ１を誇り、各新聞雑誌紙上では、医学部合格者数と合わせて国立大獣医学科なら栃木の公立伝統校、宇都宮(4名合格、全国首位)と謳われた。宇都宮高校の入試は学力と調査書の比重が９：１、更に５教科全て応用と論述問題を重視した傾斜配点（前述）による選抜である。これこそ真に３年後の大学受験を考慮した入試といえよう。

### 県立優位

近年の少子社会に伴い、高校入試も刻々と易化しつつあると言われているが、栃木県においては、県立上位層の難易度に数年来大きな変化は見られない。が、これからは07年度に宇都宮東に、08年度には佐野に設置される県立中高一貫高の動向にも注目したいところ。日々改良を重ねている私立だが、

大学合格実績を抜けない限り県立優位が続くと思われる。

**近年の高校受験特徴と傾向**

このような中、上場企業県内進出に伴い、転勤族を中心に首都圏(東京、埼玉、神奈川)受験組が年々増加していることに注目したい。その多くは東京、大宮の大手進学塾へと通い交通費だけでも月に10万円がかかると言われている。東大や私立大双璧的存在である慶應義塾、早稲田をはじめ、医歯薬系等のブランド力のある大学への憧れは根強い。ならば、歴史ある私学ならではの教育理念の下、高校生活を十分に満喫しながらも大学への道が開かれている大学附属高へ進学したい、させたいと考える家庭が確実に増えてきているのだ。

３月の地方紙（下野新聞）によると、これらの側面には県央だけでなく自治医大や獨協医大等の付属病院付近が、教育熱心な地域として拡大してきたことが誘引しているという。

県レベルでの教育意識が上昇すると共に選択肢が増えた高校受験。高校入試を扱う塾は千差万別であるが、一歩先の将来を見据えて、自分に合った塾、子供に最適な塾を探しだすことは親子共々重要になってくるに違いない。

## 首都圏中学入試報告

**私塾ネット関東　大住明敬**

**６人に１人が中学受験をしています。**

首都圏中学入試は熱いですよ。受験者数は4年連続で上昇し続け、４７０００名を越えたようです。少子化の波は全国に波及していますが、こと首都圏に関しては何処吹く風、地価の下落から高層マンションの建設ラッシュです。結果、都心回帰となって、児童数の増加となっています。更に、２００２年からの新学習指導要領導入による公立学校の学力の低下を心配する親たちが、よりよい学習環境を求めて、私立中学に目を向けており、首都圏の中学入試の受験は来年以降も上昇続けそうです。

四谷大塚などの資料を読むと、２００６年3月に小学校を卒業する生徒は２９３７７５名であり、中学受験者総数は４７８００名とのことです。そうすると中学受験率は１６．２７%となり、６人に１人は中学入試に挑んでいることになります。首都圏の中学受験は、一部の者がする特別なものではなくなりました。塾人として、この状況をきちんと把握し、中学受験に取り組む必要がありますね。中学受験に手を染めていない塾さん、今が導入のチャンスですよ。・・・・・でも、大手塾は手ごわいですよ、・・・実感（汗）。

このように受験者が増大するのはなぜでしょう。前述のように親の意識が高まっていること以外に、私学の入試改革がどんどん進んでいることがあげられると思います。入試日を数多く設ける、午後入試を設定する、また複数回入試には受験料割引をする、入学手続き金の延納措置をするなど大きく門戸を開けている学校の対応があります。特に午後入試はここ３年で多くの学校が取り入れるようになりました。２月1日の午前入試を１００としたとき、午後入試を取り入れる学校の割合は以下のように増えています。

| | 一昨年 | 昨年 | 今年 |
|---|---|---|---|
| 女子 | ３０% | ３９% | ５１% |
| 男子 | ３８% | ５０% | ５９% |

（森上教育研究所の資料）

更に、受験者はどのぐらい併願して受験しているのかを見ると、平均して男子６．２３校、女子６．０５校受験しているという調査があります。（首都圏模試センターの資料）、ちなみに私の塾生は多くて８校、少なくて３校、平均５校でした。受験生の必ず受かりたい、親の受からしたいという思いがヒシヒシト感じますね。これにも塾人として、背筋を伸ばす真剣さを痛感します。

このように受験熱の高まる私立ですが、公立学校も変化しようとしていることを忘れてはなりません。公立中高一貫校が続々と誕生しています。都内では去年の白鴎に続いて、今年、小石川、両国など４校が誕生しました。２０１０年までに１１校設置の予定です。埼玉、千葉もこれから増えそうです。

変化する公立学校にどう対処し、また進化を続ける私立中高一貫校にどう関わるか、生徒父母だけでなく、私たち塾人も加速する社会情勢の変化を意識するのと同様に、対応の仕方を研鑽しないといけないようです。

（おまけ）

私立入試では、学校側から合格者の歩留まりについて頭が痛いと聞きます。事実埼玉の学校では定員より１００名近くも多く入学して、教育委員会よりお叱りを受けたとも聞きます。それで、今年は合格点を高めにきったようです。

ところで、開成中学は定員３００名のところ４００名の合格者を出しながら、更に繰り上げ合格を１３０名ぐらい出したとのこと、いやあ、関西からたくさん受けに来るらしいですが、実力は西が高いのかな。

## 千葉県入試と自塾の取組み　―確かな学力と生き抜く力を育てたい―

**私塾ネット関東　しののめ研成義塾**
**浅輪信子**

平成１８年度の入試も終わり、私立高校入試の主流は、併願による推薦入試でした。私立６０％の学校で併願推薦を実施し、多くの受験者を集めています。これは、早めに併願推薦によって合格を確保し、“安心受験”を希望する生徒が増加しているからだと思います。しかし、一般入試の受験者数はかなり減少しました。

公立高校入試は、特色化選抜、一般入試とも全体を通してみると倍率だけは下がりました。しかし、人気高校の志願倍率は上がり、はっきりした二極化が進んだような気がします。

私の塾では、倍率の高い高校を希望する生徒が多く、特色化選抜では、　　高倍率の高校を受験した結果、一般受験まで突入した生徒は３人に１人の割合でした。

私立の単願、そして特色化選抜と、合格の切符を手に入れた生徒たちと、最後まで戦い抜いている生徒たちの心の差が激しく、生徒のモチベーションをあげるのに心を配りました。「私は、一般受験まで到底もたないので、私立に行きます」というチャレンジを拒む生徒が出てきました。

今年は少子化による志願者の減少と選抜枠を拡大した高校の増加のため、入りやすくなるはずの特色化選抜が、生徒の公立学校離れにつながっているような気がします。

また、一般受験におきましても、人気の高い高校と「定員割れ」の学校の格差がひどく、二次募集までやらなくてはいけない高校の存在が目立ちました。

確かに自分のあった高校を選ぶ系統性が強くなったと思います。でも、その陰に、回数が増えた分だけ、チャンスだけではなく不安になる生徒も増加したような気がします。

塾は、教えるだけにとどまらず、メンタルな面においてもしっかりと支え、指導していかなくてはいけないと思います。幸い、私の生徒は全員元気です。そして、笑顔で巣立って行きました。与えられた環境で、生徒一人一人を支え、満足させて卒業させるために、どんな制度でもプラス思考で対応し、先に先に手を打たなければいけない仕事だと思っています。

内申点が絶対評価に変わり、客観的に把握することができなくなり、学校独自問題により、確かなデータを得ようとする高校が増える傾向にあると思います。

制度は常に動きがあります。そして、巡り巡って元の位置に帰ってくるような気がします。しかし、どの時代でも確かな学力と心を育て、何事にも切り開く事のできる生徒を育てたいと強く思っています。

１８年度受験を振り返って、来年度の受験も今年以上に二極化が進むと思います。私たち、教育者は、どのような環境でも力強く生きていく生徒を育てなくてはいけないと心から強く思うのです。

## 平成１８年度東京都高校受験概況

**資料提供：新教育研究協会**

**【私立高校入試】**

**１．募集校数と募集人員**

平成18年度の都内私立高入試では，共立女子と洗足学園第一が募集停止となったため募集校数は１９３校（前年度１９５校）になりました。男子校だった**「錦城学園」**，女子校だった**「嘉悦女子」**が男女共学になりました。嘉悦女子は江東区有明に移転し、校名を「**かえつ有明**」に変更します。

推薦入試は１７８校で実施しました。推薦枠の全体に占める割合は45.4%と３年連続で同じ割合となりました。推薦枠は現行の制度内でほぼ上限に達しているといえます。

**２．各校の応募状況**

**①国立・私立トップ校**（偏差値65以上）

この学力層は都立高校とあまり競合しておらず安定した入試を行っていました。今春も**国立**をはじめ、**海城、開成、明治学院、中央大杉並、ＩＣＵ**などは前年度並みの応募者を集めています。しかし、**城北、早稲田高等学院、青山学院、豊島岡女子**など100人単位で減となったところも目立ち、都立トップ校の高倍率の影響をこのクラスの高校も受けているのかもしれません。**東工大科学技術**は、従来ほかの国立と別日程でしたが、今春から13日に揃えた影響で減っています。また、**巣鴨**は入試日を２回に分けたことで増加しました。

**②私立上位校**（偏差値55～64）

次の学力層からは、都立上位校と競合するため、入試制度の変更や併願優遇制度を採用しているところもでてきて変動が激しくなります。**明大中野**は、前年度は応募者減で実質倍率も下がった（4.05→2.53倍）反動で若干増加しています。**足立学園**は現在移転中ですが、文理科２回の応募者はほぼ倍増しました。一昨年の東大、東工大、北大、東北大へ合格した実績と、今春は医学部や薬学部に多くの合格者を出したこと、そして文理科の定員を増加したことでより一層難関大学をめざす姿勢を鮮明にしたことなどが評価された形です。三鷹市牟礼への移転と共学化を控えた**法政大一**は推薦入試を廃止し一般のみの募集となりました。**瀧野川女子**の新設コース「**特進選抜**」は、この段階での応募者は多くありません。男女合同募集とした**東海大高輪台**は、前年度併願優遇を廃止し、応募者が半減した反動で増となりました。併願優遇制度の基準を据え置いた**青稜**は、前年度応募者減の反動もあって盛り返してきています。**東京農大第一**は２年目を迎えた難関進学は応募増となったものの、進学は大きく減らしました。昨年併願推薦を廃止し、大幅な応募減となっ

います。**國學院**はほぼ前年度並みで安定。**國學院久我山**は女子が若干減となっています。**日大鶴ヶ丘**は普通、特進ともに若干増加しました。特進は受験基準を緩和したことの影響でしょう。**工学院大学**の新設コース**文理特進**は、この段階で応募者は多くありません。一方でやはり新設の**八王子**、**文理進学**は多くの応募者を集めました。ただし、普通コースの応募者は減らしており、普通からシフトしているもようです。**桜美林**は併願基準を下げたこともあり応募者が増加しています。逆に併願基準をアップした**東京電機大学**は敬遠されて減。系列大への特別推薦と他大学との併願を認めない**明治学院東村山**も減らしています。併願基準を据え置いた**拓殖大第一**は大幅に増加しました。（ここまでは中間応募状況での比較です）**東洋**は受験者が併願推薦にシフトし、一般入試を受験するケースは少なくなっています。今春も特進は内申基準を据え置いたこともあって前年度同様の応募者を集めています。**城西大城西**はＡ推薦に適性検査を導入した影響からか若干減、都外生対象のＢ推薦では基準を5科20→22とアップしこちらは大幅に減っています。**八王子**の**文理特進**（Ｃ推薦）は好調で前年度以上の応募者を集めました。こうしてみると、上位校も応募減となったところが目立ちますが、中には逆に増加しているところもあります。増加した学校は都立上位校との併願校としてよく利用される所が多いようです。

**③私立中堅校**

中堅校では、目立ったところをあげていきます。まず、共学化、移転、校名変更の「**かえつ有明**」は多くの生徒を集めました。おそらく来年度はかなりレベルアップすると思われます。同じく共学となった**錦城学園**も大幅増となりました。新設された特進などのコースは苦戦したところが多く、推薦入試では定員に満たないケースが続出しています。新校舎が完成した**正則学園**は、推薦入試に適性検査を導入しました。しかしその影響はほとんどなかったようです。**大森学園**の普通科は応募者増となっています。19年度は普通科の共学化を予定しておりレベルアップが予想されます。推薦基準、一般併願基準の両方とも据え置いた**立川女子**も応募者増となっています。**朋優学院**は前年度並みで推移、安定した人気を維持しています。**多摩大目黒**は推薦、一般併願とも基準をアップしたため大幅に応募減。**国士舘**は基準据え置き、駒沢大学からの流入もあって応募増となりました。前年度とりすぎて、今春は推薦基準を実質的にアップした**駒沢大学**は予想とおり応募減。**実践学園**は、基準を据え置いてはいるものの応募者数は減少傾向になっています。杉並学院などに流れているのかもしれません。その**杉並学院**は前年度以上の応募者を集めており、しかも特進志望者が増加しているようです。徐々にレベルアップしてくるでしょう。**桜丘**は推薦、一般ともに基準は据え置いています。大学合格実績も伸ばしており応募者増となっています。**成立学園**も基準据え置き。この資料作成の時点で推薦の応募状況は不明ながらＢ推薦利用者が増加している模様です。**大東文化第一**は推薦に適性検査を導入しましたが、その影響はあまりなかったようです。一般入試では２回に分けていた入試日を一日に統一。その結果、応募減となっています。**八王子**の普通コースは新設の文理進学コースの影響で応募減。**八王子実践**は基準据え置いて応募者が増加しています。前年度、八王子実践の基準値アップで恩恵を受けた**昭和第一学園**は今春は応募減となっています。**大成**はＢ推薦を弾力的に運用したため応募増となりました。別学から共学になる**明星**も応募増となっています。

**【都立高校入試】見えてきた二極分化**

平成18年度の都立高入試は、二極化傾向がはっきりしだした入試であったといえるでしょう。学力上位校を中心とした学校は高倍率で厳しい入試になった一方で、中堅下位校を中心とした学校は低倍率で緩やかな入試になりました。今までの傾向では、高倍率校はその翌年倍率が下がり、下がった翌年はまた上がるという隔年現象が多く見られましたが、ここ３年ほどは高倍率校、低倍率校が固定化してきているようです。

１．都立推薦入試「１月２７日（金）」

推薦入試の募集人員9,967人に対し応募者数は30,428人，応募倍率は3.05倍となり，前年度の3.14倍より0.09ポイント低下。厳しい推薦入試を嫌ったためか応募倍率は低下傾向にあります。合格者数は9,967人,合格率は32.8％と前年度の31.9％を若干上回りました。全体的に合格率は上昇していますが、男女別募集の普通科は男子が31.9％（前年度32.6）、女子23.1％（同23.0）と男子はむしろ厳しくなっています。

２．学力検査（第一次募集・分割前期募集）「２月２３日（木）」

①出願状況

最終的な応募者数は，41,412人，最終応募倍率は前年度より0.01ポイント高い1.43倍になりました。全体的の応募倍率はほぼ前年度並みでしたが、男女別募集の男子が前年度の1.39倍から1.46倍へと大幅にアップしたのが目立ちました。

②受検状況

2月23日（木）の学力検査に臨んだ全日制の受検者数は38,404人，受検倍率は1.32倍になり４年連続で1.3倍台を確保，高い倍率になりました。受検棄権者数は3,008人で棄権率は7.3％と，このところ受検棄権率は毎年過去最低を更新しています。学科別に見ると、普通科の倍率が上がった分、商業科、工業科、農業科、家庭科などの専門学科の倍率が下がっています。また、総合学科は安定した倍率を確保しています。

③合格者の状況

38,404人の受検者の内，合格者数は29,667人，実質競争率は1.29倍で不合格者数は受検生の22.8%を占める8,737人。不合格率が２割を超える状況が続いています。不合格率は高原状態にあるといえますが、今春の入試の場合専門学科の倍率が下がって不合格者が減り、普通科の倍率が上がり不合格者が大幅に増加したところに特徴があります。特に男女別募集の普通科では男子の不合格率が20.6%から23.4%へと2.8ポイントもアップ、女子も22.6%から24.2%とアップし普通科の受検者にとっては厳しい入試になりました。学力上位校の倍率が上がったことから、不合格者も学力上位校に集中しています。入学辞退率は1.2%とほぼ例年並みの低い数値になりました。水増し合格者数は657人，2.3%。前年度と同じで、実質倍率は４年連続で1.29倍となりました。

以上見てきたように、今春の都立高入試は都教委のコメントにもあったように「選ばれる学校とそうでない学校がはっきりして」きました。「選ばれる学校」は学力上位校に多く、「選ばれない学校」は中堅下位校に多いというように二極化が進行しています。

この背景には次のことがあると考えられます。

(1)昨年、日比谷をはじめとした重点校の大学合格実績の伸びが都立でも有名大学に進学できるということ証明したこと（マスコミが宣伝したことも大きい）

(2)学力上位校では校内改革が進んでいるところが多くきめ細かい指導が期待できること

(3)塾対象説明会の開催や塾訪問など、塾に対する広報活動を積極的に行っていること

(4)私立併願が比較的とりやすくなり、都立上位校に挑戦しやすい環境になってきていること

(5)進学指導が中学校から塾に移ってきていること

(6)中堅下位校では上位校ほど改革が進んでおらず、同レベルの私立高と比較すると学習指導面、生活指導面で遅れをとっていること

(7)チャレンジスクールやエンカレッジスクール、昼夜間定時制など一部の高校に人気が集中している上、私立推薦への流れもあって中堅下位の学力層が薄くなっていること

低倍率校も、中堅校活性化推進校や重点支援校の指定を受けてそれぞれ改革を進めており、それらの中から「選ばれる学校」がでてくることも考えられます。しかし、現状ではこのような傾向は多少の変動はあるにしても今後も続くと思われます。

３．来春（19年度）の都立高入試について

都立高入試は、現行のシステムで大きな制度変更もなく3年間入試が行われましたが19年度入試では制度変更が予想されています。その内容は現時点では不明ながら、大きな流れとしては学力をきちんと見ていこうという方向に向かっているといえます。従いまして、受検生への指導としてはどれだけしっかりと学力をつけることができるかに尽きてくるのではないでしょうか。

**（2006年4月16日3時1分　読売新聞）より**

**塾に通えぬ小中学生に“公立塾”**

経済的理由などで塾に通えない子どもを支援するため、文部科学省は来年度から、退職した教員ＯＢによる学習指導を全国でスタートさせる方針を固めた。通塾する子どもとの学力格差を解消するのが狙いで、放課後や土・日曜に国語や算数・数学などの補習授業を行う。来年以降、団塊世代の教員が相次ぎ定年を迎えることから、文科省では「経験豊富なベテラン教師たちに今一度、力を発揮してもらいたい」と話している。教員ＯＢによる学習指導は、希望する小・中学生を対象に、放課後や土・日のほか、夏休みなどの長期休暇を利用し、小・中学校の教室や公民館、児童館などで行う。受講は無料とし、テキスト代などは参加者に負担してもらう方向で検討する。教員ＯＢの確保は、講師希望者を事前登録する「人材バンク」のような制度の整備を目指しており、計画が固まり次第、各都道府県教委などに協力を呼びかける。講師への謝礼などについては、今後さらに協議する予定だ。文科省は、長崎市で２００３年７月に起きた少年による男児誘拐殺人事件などを受け、地域住民と子どもたちが一緒に遊びやスポーツを楽しむ「地域子ども教室」を推進している。教員ＯＢによる学習指導は、この事業を拡大する予定で、各都道府県を通じ、市区町村に運営費用を支援する。

# ご　挨　拶

本日は全日本私塾教育ネットワーク（私塾ネット）の全国研修会にご参加賜りありがとうございます。
全日本私塾教育ネットワーク（私塾ネット）は、設立から６年目を迎えました。これまでの全国研修会では、我らの会員である「全国元気塾からの提言」や「教育コーチングワークショップ・協力成基学園」「夢の学校の創り方・協力片山学園」「感動創造・モチベーションアップ（牛角では）」などを手がけ、受講された全国の塾様にたいへんな好評を得てまいりました。

今回の全国研修会では、学習塾の原点に戻り、塾の最大の商品である授業の創り方に焦点を当て、全国各エリアで活躍している会員塾のノウハウを大公開いたします。また、これまでの全国研修会に脈々と流れる「感動創造」という視点から「感即動」を基底にして最高レベルの授業を創り上げてきた元トップ講師の方をお招きし、お話をうかがえることとなりました。関西大手進学塾浜学園で生徒支持率９５％以上という驚異的な実績を持ち、希（のぞみ）学園の設立に役員として参加。現在学校教師、塾講師向けの授業指導を行っている株式会社「アビトレ」代表・木下晴弘先生です。

お越しになったみなさまに喜んでいただける研修会となることを祈念しております。

# プ　ロ　グ　ラ　ム

## 第一部 研修会　午後２時００分～５時２０分

ご　挨　拶　私塾ネットセンター理事長　谷村志厚

ご　挨　拶 協力団体：東京私塾協同組合理事長　岡田保雄

## ①　プロローグ　１４：０５pm～１４：３０pm

『私塾ネット　元気塾ノウハウ公開！』

●中部・近畿エリアから　長野県・チャレンジ学院（代表　松本先生）
●中国エリアから　広島県・学習共同体グループ（代表　河濱先生）
●四国・九州エリアから　徳島県・楠山ゼミナール（代表　楠山先生）

## ②　エピソード　１４：４０pm～１７：１０pm

『感即動　感動が人を動かす』
～生徒が感動する授業の創り方～

（株）アビトレ代表 木　下　晴　弘

情熱の授業はここから生まれる（プライマリーセミナー）

●先生としてのあり方・やり方
●感動が人を動かす
●感動を生むための３つのステップ
●「いい営業」＝「いい授業」の勘違い
●ほんのちょっと話術のおはなし「一時に一事」

## 途中１０分の休憩が入ります。

●私立学校のパンフレットコーナーを設けています。ご覧くださいませ。
●塾チラシ・ＤＭ・パンフレット閲覧コーナーをご覧くださいませ。
●お茶もご用意しております。ご自由にお取りくださいませ。

## ③　エピローグ　　１７：１０pm～１７：２０pm

## 第一部　閉会式

**第一部をふり返って　私塾ネット副理事長（四国代表）　湯口兼司**

**御　礼・ご 挨 拶　私塾ネットセンター　会長　山口恭弘**

## 第二部　『私塾・私学・教育企業懇親会』 午後６時～７時４５分

私塾ネット（全日本私塾教育ネットワーク）は、設立されて丸５年がたちました。
全国各地で地域教育に活躍する学習塾が地域のみなさまや学校様からのご支援・ご協力を得て、よりよい教育を構築しようと団結して５年が経過したわけです。

今後も、多くの方の協力を得て、全ての人が幸せを感じられる世界を築くために、教育という地道で最重要な活動を続けたいと考えております。

そこで、熱気あふれる第一部に引き続き、第二部では食事をしながらさまざまな意見交換・情報交換をいたしましょう。すてきな世の中を創ろうとする、すてきな仲間に出会いたいと思います。

なお、第二部に事前にお申し込みではない方の懇親会の当日ご参加も歓迎いたします。ぜひお越しください。（受付にお申し出ください。）

**場所　第一部と同じ会場です。**

**研修会終了後、パーティー会場設営に多少時間をいただきます。**
**研修会から引き続きご出席の方はロビーでお待ちください。**

### 会場のご案内

**ＪＲ京浜東北線　大井町駅 中央東口前**
**りんかい線　大井町駅より 徒歩３分**
**東急大井町線　東急大井町駅より 徒歩１分**
**京浜急行線　青物横丁・鮫州より 徒歩１０分**

**大井町は**
**東京駅より１５分**
**羽田空港から３０分**

**講演者略歴（敬称略）**
**木下　晴弘（きのした はるひろ）**
**株式会社アビトレ代表取締役会長**

同志社大学卒業後、銀行へ就職するが、学生時代、兵庫県西宮市にある大手進学塾浜学園での講師経験で得た充実感が忘れられず、退職。同塾の専任講師に。その後、関西屈指の進学塾希学園の設立･経営に役員として参加。以後、10年間にわたり、講師および広報、渉外、講師研修などさまざまな業務を経験。2001年春、同学園を退職し、アビリティトレーニングを設立。教職向けの授業開発セミナーを実施している。現在、6000名以上の教師の魂を揺さぶった実績をもつ。

＜㈱アビトレ　挨拶文より＞
こでAさんはYさんにこう尋ねました。
A 「あなたは何をしているのですか？」
すると職人Yさんはこう答えました。
Y 「ここには学校ができるんです。だから今、レンガを積んで学校を創っているんです。」
さらにAさんが道を歩いていると、また黙々とレンガを積んで、建物を造っている職人Zさんがいました。
そこでAさんはZさんにこう尋ねました。
A 「あなたは何をしているのですか？」
すると職人Zさんはこう答えました。
Z 「ここには学校ができるんです。私が今積んでいるレンガの一つ一つが、これからここで未来に向けて大きく羽ばたく子どもたちの夢を育むんですよ。だから今、私は子どもたちの 夢を創っているんです。」
アビトレは職人Zさんのような先生の育成･サポート･紹介に全身全霊で取り組むことを誓います。
子どもたちは、出逢う指導者によって変わります。素晴らしい指導者と出逢った子どもたちは感動を受けます。 そして、感動を受けた子どもたちは、夢を語る大人になる･･･

日本の教育業界を変えるというと大袈裟かもしれませんが、「願えば叶う」と考えております。
日本の国民の方から「待っていたよ」といわれるような企業となるために、
心血を注 いで業務に当たります。
「すべての人に生まれてきた幸せを」を感じてもらえるような教育現場作りをめざします。
教育業界のベンチャー企業としてこれから10年の弊社の活動に期待してください。

＜会社概要＞
社名　株式会社　アビトレ　　http://www.abtr.co.jp/index.html
- 設立　2001年5月
- 所在地　大阪市浪速区幸町2-2-20　清光ビル803
- 代表取締役会長 木下　晴弘　代表取締役社長 中園　潔
- 資本金　1000万円
- 業務内容　教育機関への先生紹介事業「アビナビ」／各ご家庭へのプロ家庭教師派遣事業「マイスター」
  教育機関へのコンサルティングおよび研修事業「アビリティトレーニング」

会費

| | 第一部＋第二部（第一部のみ） | 第二部（1名追加につき） |
|---|---|---|
| 私塾ネット会員･賛助会員<br>東京私塾協同組合会員 | 13000円（5000円） | 8000円 |
| 協賛団体会員 | 14000円（6000円） | 8000円 |
| 非会員 | 15000円（7000円） | 8000円 |

（　　）内は第一部・研修会のみの参加費です。第一部の追加１名は上段より３０００円、４０００円、５０００円です。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 主催 | 全日本私塾教育ネットワーク | 協賛 | ㈳全国学習塾協会･全国学習塾協同組合･千葉学習塾協同組合･NPO法人塾全協･NPO法人全国教育ボランティアの会･私塾協議会･パソコン教育推進協会･進路指導研究会 |
| 協力 | 東京私塾協同組合 | | |

| | | |
|---|---|---|
| お問い合わせ･入会お申し込み | 私塾ネット事務局<br>TEL　03－3963－5572 | 東京都板橋区仲宿53-10　ナカジュク内<br>メール　jimukyoku@shijuku.net |

**[第二次申し込み締め切り日　４月１８日]**

# エリア通信

国語科主任に花束を贈る会員の吉田先生

**私塾ネット関東　国語科主任　加藤　実**

**国語科研修を終えて**

学習塾の存在理由の第一は子どもたちに効率的かつ実戦的な学習指導をし、成果を出すことである。学校というところは「学習する場」であるから、この「学習」で苦しむと「学校」がおもしろくなくなる。だから、なんとか学校を楽しい「勉学の場」にしてあげたい。

子どもたちはとにかく忙しい。だから短時間に記憶・理解できる最善の方法を塾教師は伝授しなければならない。そのための勉強会は常に必要であると考える。

先陣を切って昨年平成17年５月、第１回の「文語文法勉強会」を開始した。なぜ「文語文法」なのかといえば、碇数学研究会の第一期生仲間である吉田弘子先生から「高校生の文語文法指導をしなければならなくなったので、なんとかして欲しい」との要請を受けたからである。「口語文法」は若い先生にお願いするとしてとにかく始めた。急がなければならない事情があった。

テキストに書かれていることをそのまま指導していたのでは塾教師は務まらない。書かれている内容を要約してポイントだけを説明しなければならない。案外これが難しいのである。教師はとにかくしゃべりすぎるのである。これも覚えて欲しい、これも話しておかなければならないと。必要かつ最小限に絞るのが難しい。初めから完璧にやろうとする。するとどうなるか？レベルは高くなり、記憶すべき量も多くなるのである。参考書は皆これである。思い切ってバッサリ捨てることだ。基本を記憶、理解したらその次に進めばいい。高２で少しレベルアップ、高３で入試演習をやっていけばよい。高１のうちはとにかく品詞分解を繰り返し、基礎を徹底的に理解させることである。「品詞分解」は基礎なのである。その「品詞分解」をどう現代語訳に活かすか、どう解釈に結びつけるか、それが応用発展なのである。

5／11（水）・②6／20（月）・③7／12（火）・④9／12（月）・⑤10／17（月）・⑥11／28（月）・⑦12／19（月）・⑧1／23（月）・⑨2／27（月）と８月を除いて毎月の勉強会あった。毎月勉強会に出席するということは並のことはない。私の拙い勉強会に９回もつきあってくださった先生方、ただただ感謝！私はこれからもたくさん勉強していきたい。知らないことが多すぎるのだ。数学・英語・理科・社会専門の先生方もぜひ力をお貸しください。

平成18年４月６日午前２時６分

熱心に国語研修を受講する会員の先生方

**私塾ネット中国代表　北川　健治**

３月９日　田中学習会広島駅前校で定例会を実施いたしました。参加者は北川、山口恭、城、平岡、佐藤、上原、田中弘、岩石、田中達、山口哲、西本、の各塾長先生とオブザーバー参加者として岡山の大島塾の大島先生。最初に、任期満了につきエリア人事がなされました。結果、代表、北川、会計・副代表に田中弘が再任されました。次に、06年度の定例会の場所と日程を討議いたしました。５月１１日（広島）、７月１３日（福山）９月１４日（広島）１０月８日（徳島⇒協会の塾の日にドッキング、一泊）１月１１日（広島）３月１５日（広島）場所はおおむね、広島開催はグランビアホテル、田中学習会で開催されます。7月は去年に引き続き、会員塾訪問ということで実地の福山開催となりました。次に中国エリアとしてセンター代表者会議に、本年度私塾ネットの名誉会員に昨年の城先生についで、平岡先生を推挙することを全員一致で確認しました。その他、協会、任意団体、私学、教材販売会社と私塾ネットのかかわりについて討議した。また昼食会をはさんで、参加全塾が恒例の通り、冬期講習会の

経営・運営状況の総括、春期講習会・新規生徒募集の取り組みを発表しあいました。

**私塾ネット四国代表　湯口　兼司**

３月１２日　湯口塾研修センターにて　２００６年度役員会を開催いたしました。
以下、行事予定（案）を決定しましたので報告いたします。
なお最終決定は５月１４日（日）《私塾ネット四国総会および研修会》にて決定いたします。

私塾ネット四国　『総会及び塾長、職員研修会』
場所　湯口塾研修センター（香川県三豊市高瀬町
日時　５月14日（日）四国の会員　午前１０時半受付１１時より総会その他の会員　正午　受付開始昼食（参加者全員）午後１時より４時　開会式及び研修会　研修内容
１）中学数学　川口順次（育心館）
（分科会）
２）小学算数　長岡一彦　（啓真館）
３）中学英語　　湯口兼司　　（湯口塾）
４）衛星授業のノウハウ公開と校舎見学
東進衛星予備校善通寺校　寺嶋謙次
午後４時半より湯口塾本部、ティーチングラボ見学(懇親会については検討中です。)午後７時より授業見学(生徒も参加)があります(１０名限定)
詳細については４月２３日私塾ネットセンター研修会にて配布いたします。
１０月８日（日）全国学習塾協会主催『塾の日in徳島』に合わせて私塾ネット四国の研修会を開催し、全面的に協力をすることを決定しました。

２００６年度　四国エリア役員（案）
支部長　湯口兼司　会計　山田明子
広報、監査　楠山敬志
研修部　原田真一　書紀　福富耕二
ネット管理　川口順次
各県代表　香川県　寺嶋謙次、山田明子
愛媛県　川原光明、十亀幸雄　徳島県　近藤誠介、松田俊治　以上よろしくお願いいたします。

**私塾ネット東北代表　畑山　篤**

「私塾ネット東北のメッセージをしっかり東北エリアの学習塾の皆様に伝える」という活動目標に向けて、今年こそは一昨年に行った『教育進学情報交換会』を再度実施するべく計画いたしております。その他①教務・経営の研修②親睦交流なども行っていきたいと思案中です。

**私塾ネット関東代表　鈴木正之**

私塾ネット関東は、日本の中央に位置していることや会員塾が多いということで私塾ネットとして重要な役割（責任）が有ると認識しています。なにより会員塾の発展と子ども達の幸せを第一に考え、私学や他団体、関係企業との関係を大切にし、行政への働きかけもしっかり行っていきたいと考えております。今後ともよろしく御願いいたします。
１．私塾ネット関東の活動方針
(1)教育、学習塾経営に関する情報と意見交換による意思統一
(2)他団体との協力関係の構築と行政への関わりの強化
①渉外部を中心に他団体との協力体勢を強化。合同イベントや共催も積極的に行う。
②私塾ネット関東の意見を統一して行政や他団体に発信する。
(3)教科指導、学習塾経営に関する研修
教務部、研修部、各支部は教務研修及び塾経営運営研修を定期的に行うように努める。
(4)会員、他エリアとの懇親、協力＆家族、職員の尊重
①役職や塾の大小を抜きに互いを尊重信頼し意見を交換できる組織を目指す。会員塾が積極的に行事に参加する組織を目指す。
②家族や自塾の職員に感謝尊重し、職員の研修会、懇親会への参加の推進とニューイヤーパーティに家族を招待する。
(5)私学との協力関係の構築
私学情報交換会、他の行事を通して私学との教育的結束を強化し、教育界の活性化を図るとともに塾生の指導に役立てる。
３．活動計画　(1)定例会
原則として第２木曜日１０：３０より。（5月、８月、１月を除く）
(2)その他の主な行事
①教務部研修…第１回５月２９日(月)口語文法
②研修部研修…定例会時の定例研修と宿泊研修、会員塾訪問研修等を予定
③私学情報交換会…１０月２２日（日）

# 宮崎哲周先生追悼文

**私塾ネット顧問元全日本私塾協会会長　安藤進理**

宮崎哲周先生、貴方は逝ってしまった。一年八ヶ月の闘病生活であった。先生の命を奪い取った癌は、おそらく五年位前から彼の体を少しずつ蝕んでいったに違いない。忍び寄る黒い影に気付くことなく末期を向かえてしまった。激痛に耐え、力尽きて逝ってしまった宮ちゃんよ、さぞかし無念であっただろう。紅梅、白梅の咲き乱れる中、いつもなら心和ませてくれる美しい花々も、当たり前の如く色あせて見える。日々の責務に追われ追悼文が思うように書けないまま、あっという間に桜の花が咲き、そして舞い散り始めてしまった。宮ちゃんを連れていった天に対し、怒りに拳を握りしめる私が、今ここにいる。

だが、怒ってばかりもいられない。ここらで少し宮崎先生についての思い出を綴らせて頂きたい。私が、先生と初めてお会いしたのは確か、昭和三十九年十二月頃だったと思います。同年末から四十年十二月にかけて、東京私塾会を発足するにあたって、数々の談合、打ち合わせを重ね、時には自塾の授業を休講にしての奉仕や徹夜での討議も行いました。これも先生ならではの責任感の強さであり、その頃からの厚いご交誼を頂く仲でした。

今は亡き我ら旧ＰＴＦの親父、高木幾二郎先生が、当時の広報、私塾だより等を多忙の中でこなしているのを、それとなく補助するのが彼でした。昭和四十年代は、鉄筆、ガリ版、謄写版印刷でした。その文字の中には奥様の文字も含まれていました。これぞ正しく内助の功、ご家庭までもが伺えます。時の流れと共に、社団法人全国学習塾協会を実現するにあたって、昭和六十一年頃から在京六団体の代表委員として書類の作成から、会議内容の摘録を作り、何度も通商産業省との話し合いに参加されました。その結果、昭和六十三年十月八日に通商産業大臣の許可を頂き、設立の運びと成りました。その後、会員の決議に依り、初の理事としてご活躍されました。会議の発言も控え目で、縁の下の力持ち、人に知られない所で努力をする先生でした。

平成七年四月、全日本私塾協会東京私塾会、第五代理事長、平成九年四月全日本私塾協会第六代会長、平成十三年六月全日本私塾教育ネットワーク顧問として、重責を果たされて参りました。以上、簡単ではありますが、宮崎先生の軌跡であります。

私は夢を見ました。それは、何とも懐かしく感慨深くなる夢でありました。今は亡き私塾の仲関達がそこに集っていました。高木先生、西川先生、中村先生、勝俣先生、旧全塾連の島本先生、恩田先生、浅沼先生、永峰先生、そして宮崎先生に私。場所は何処だか分かりません。掘り炬燵に足を入れ、皆で酒を酌み交わし、それは本当に楽しい宴でありました。暫くして、私だけが宴から中座してしまいました。「僕はちょっと用事があるからね、終わったらまた戻ってくるからね。」と言ってその部屋から出たところで目が覚めてしまいました。この時、宮崎先生の命の灯火の限界を感じざるをえなかった。彼が亡くなったのはそれから一週間後のことであった。家族、仲関連には申し訳ないが、本当は僕も連れていってもらいたいところである。要するに、お前はまだこの世に残れということなのだろう。これが先人達の命ならば、私は、もう少し現世に留まることにしよう。今ここに残された仲関達と共に、出来る限り私塾ネットをそして業界を盛りたてて参りたいと思います。

宮ちゃんのことは、いつまでも忘れない。どうぞ安らかにお休み下さい。

**現私塾ネット名誉会員　木下公作**

友逝く

宮崎哲周先生、宮崎先生、宮ちゃん、

できることならもう一度声を聞きたい、逢いたい、一諸に飲みたい、ガンの奴が憎い、帰らぬ旅路へたたれたことが侮しい、先生、先生、逝くのが早過ぎる、残念でなりません。　先生とお会いしたのは昭和４２年７月九段の学士会館での定例会の時でしたね。

当時、故西川先生がＰＴＦの会長、故高木先生が東京私塾会の会長で先生は会計、広報を担当していましたね、それ以来４０数年家族ぐるみのご交誼を賜り有難う、塾人としての先生は清廉潔白を絵に書いた様な人でした。各団体を統合した研修会では会計を担当して過不足なく全うし各団体から賞賛されましたね。私もお手伝いさせて頂き九州、岡山、大阪、京都、名古屋、横浜、等々、書ききれませんが今若い先生方が会を盛り立ています。ご安心下さい、私人としての先生は良き家庭人であり、良き友人達がいっぱい、それらの人達に囲まれ先生でした、私も先生の家での飲み会、私の家での飲み会も

度々でしたね、旅も知床、東北他、奥さん家内共々４人旅などと勝手に称して旅人に成りましたね、もう先生は彼岸の彼方で一人旅をしている、残念です。何故。

先生からとんでもない電話を貰たのが平成１７年８月２０日で、俺、胸にガン出来たよ、これからは投薬の為、通院するよ。之が始めで入退院を繰返し１０月２８日、医者は胸半分が機能してない検査結果は最悪。呼吸困難になる筈が、それが無いのは不思議です。気管支が大分やられている。度々ではないが血をはいている。１１月２日入院、気管支に転移、気管を塞いでいる。胸が時々いたむ、医者、１１月末か１２月頭までもつか正月を迎えられれば奇跡、１８日退院２４日から右胸の治療点滴、投薬通院。腰の痛み以前より甚だしい、麻薬で押さえる。平成１８年２月８日、脳幹にガン転移の為神経系不能になり足腰の痛み無くなる、死を意識してか通夜葬儀には木下、安藤、平林さんには知らせて、お三方には来て貰え他の人たちにはご迷惑をかけるから連絡はするなと言っている。しかし意識はあるが話し合いがうまく出来ない、食事を一切受け付けない。同年３月１２日午前１時２４分先生逝去。残念です。先生、黄泉路の安穏とご冥福を心からお祈り申し上げます。

合掌

**宮崎先生　安らかにお休みください**

**お焼香をする奥様**

# 各　部　報　告

**渉外部報告**　　**次長　加藤　実**

●１月29日(土)

「私塾ネット関東　ニューイヤーパーティー」

クイズ、ギター演奏、仲野事務局長のお子さんの空手の演技、仲野先生のギター演奏、谷村志厚先生司会によるビンゴゲーム、いぶき学院の山本先生と渡辺　浩先生のダンスの披露など、盛り沢山の家族的雰囲気の中でニューイヤーパーティーが開催されました。

［会　場］お台場「CAFF LA BOHEME」

［参加者］50名

●２月５日(土)えんがわフェスタ2006

「生きいきワクワク体験・親子の集い」

［内　容］①ブーメランを作って飛ばそう！②タワッチ君で遊ぼう③中嶋教授の楽しい天文教室

調布市市民プラザあくろす　開設1周年記念の行事に参加

［主　催］NPO法人 全国教育ボランティアの会

［会　場］公設民営市民プラザ「あくろすホール」

●２月14日(火)

「私塾ネット関東平成18年度役員会」

各部局の活動報告、来年度の組織と活動計画

［会　場］東京駅八重洲倶楽部「第11会議室」

●３月20日(月)

「学習塾に通う子どもの安全対策セミナー　in 東京」

有明の「東京ファッションタウンビル東館９階研修室906において「学習塾に通う子どもの安全対策セミナー」が午後１時より開催された。司会は稲葉秀雄社団法人全国学習塾協会専務理事。

**開会**　石井正純社団法人全国学習塾協会会長

**挨拶**　橋本正洋経済産業省商務情報政策局サービス産業課長

萬谷宏之文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課民間教育事業振興室長

**主な出席者紹介**

東京都府中市教育委員会学校教育部指導室

茨城県教育庁義務教育課

茨城県結城市教育委員会指導課

埼玉県朝霞市教育委員会生涯学習課

神奈川県教育委員会子ども教育支援課

**講演**　演題「学習塾による子どもの安全確保の考え方・進め方」

講師　東京学芸大学教育学部　渡邊正樹教授

**解説**　「学習塾に通う子どもの安全確保ガイドライン」

講師　関　志郎社団全国学習塾協会常任理事

**質疑応答**

このセミナーは京都市宇治市の学習塾講師による小６女子児童殺害事件を受けて、急遽開かれたものである。

大事なことは事件が起きてから慌てて対策を講じるのではなく、常日頃から生徒の安全を確保しようとする姿勢を持ち続けることである。当塾では①授業開始と同時に教室出入り口を施錠して外部から不審者が侵入できないようにしている。②教室教壇横には不審者攻撃用木刀を配置。③出入り口は常時ビデオ撮影。④安全について授業中に生徒指導等かなり前から実行している。「自分の身は自分が守る」という意識を常に指導することが大切である思う。歩きながらの読書や音楽鑑賞などはもってのほかである。外出中は全神経を集中して、不測の事態に直ちに対応できるようにすること、家の中でも施錠や閉戸など注意すること等と具体的に指導。また特に暑い夏などは要注意であると。理論より実践である。

「学習塾に通う子どもの安全確保ガイドライン」（学習塾に通う子どもの安全対策推進委員会）、

「学習塾における倫理と行動の基準」（倫理綱領　社団法人全国学習塾協会）

# 私塾ネットセンター　事務局通信

事務局長　仲野十和田

**《２００５年度を振り返って》**

私塾ネットが結成されてから、５年の歳月が流れました。３つの団体をまとめるにあたって、山口恭弘会長をはじめとして諸先輩の先輩方が多大な労力を費やされたことが思い出されます。私塾ネットはエリア活動を中心とした団体です。活動状況はエリアによって違いますが、そのパワーはすばらしいものがあると思います。また、昨年（片山学園）、今年（湯梨浜学園）と会員塾が新たに学校を立ち上げるなど、学校経営に本格的に取り組んだ先生方もいらっしゃいます。一方で（社）全国学習塾協会や全日本学習塾連絡会議では多くの方が重要なポストで活躍されています。私塾ネットの誇りです。

センターの役割としてこのような中央行政の活動を会員の皆様にお伝えしていくことがありますが、なかなか満足のいくような活動ができなかったと思っています。ネットワークの充実と同様、今後の課題として、できるだけ多くの情報を一人ひとりの会員の方にお届けできるよう、考えていきたいです。

**《２００６年度活動予定　4/20現在》**

**エリア関東**

**4/23　会員総会　　5/9　定例･研修会**
**6/13　定例･研修会　9/12　定例･研修会**
**10/10　定例･研修会　10/22　私学情報交換会**
**11/14　定例･研修会　12/12　定例･研修会**
**1/28　ニューイヤーパーティー**
**2/13　定例･研修会　3/13　定例･研修会**
**4/10　定例･研修会　4/22　会員総会**

**エリア中国**

**5/11　定例会（広島）　7/13　定例会（福山）**
**9/14　定例会（広島）　10/8定例会（徳島）**
**1/11　定例会（広島）　3/15　定例会（広島）**

**エリア四国**

**5/14　総会及び塾長･職員研修会**
**10/8　研修会**
**全国学習塾協会主催『塾の日IN徳島』会場にて**

## 閑話休題

理事長　谷村　志厚

**◆全国研修大会に寄せて**

今号は4月23日に品川区大井町「きゅりあん」で実施される、全国研修大会の記念号となっており、見開きページが大会プログラムで構成されている。全国研修大会は旧全塾連の全国職員研修大会を踏襲し、毎年4月の総会時に同時開催している。私塾ネットエリア（地域団体）の活動が優先する私塾ネットの組織においては、この研修大会が私塾ネットセンター唯一の主催行事となっている。今回はセンター研修部長の田中宏道さんのご努力により、木下晴弘氏をお招きしてのセミナーを開催することとなった。塾の原点たる魅力ある授業創造のための、実践的な講演内容になることが期待できる。今回の講演をプライマリセミナーとして、会員が主催し会が協力する形で、木下先生には今後一年を通したセミナーをお願いするそうである。ともすると尻切れとんぼに終わることの多い研修セミナーが、このような形で継続できることは画期的なことであろう。

**◆おっとびっくり！無料の公立塾**

公立中高一貫学校の開校、英語の小学校義務化、公立学校での民間人活用、品川区の小中一貫「4.3.2制」導入といった制度変革から、教育基本法の改正論議まで、まことに昨今の教育に関する話題はネタが尽きない。そんなおり4月16日読売新聞朝刊は、一面に「塾に通えぬ小中学生に・無料の“公立塾”」なる、塾人にとってはまことにセンセーショナルな見出しをうった。今後激増する教員OBを活用しての「学校内塾」の開設だという。このことは早速今号７ｐで概要が記載されているのでお目通しいただきたい。

さてさてこれはどうだろう？！社会の階層化が進行し、その根底にある教育を受ける機会と家庭経済の格差が指摘される今、「塾に通えぬ子供たちへの無料の塾を･･･」といわれると否定のしようのないことではある。かつ団塊の世代の教員OB活用といわれると、同世代の私もおもわずなるほどと納得してしまう。これは退職教員の天下り策かと。

もしかりに、この制度が各地で取り入れられ実践されたらどうであろうか？これまでの補習中心の地域塾は少なからずの影響を受けることであろう。都会型の受験塾にはさほど影響はない、いやむしろ差別化という意味で需要が増加すると想像できる。

しかし、よくよく考えてみればお上主導の、学校を会場とした、それも無料の「塾」がはたして成立するものやら。無料講座に生徒は継続しないというのは、我々は経験上心得ていることだ。それに生徒が学校の教室で、教員ＯＢの方の指導を受けることをはたして歓迎するであろうか。おおいに疑問だ。学力低下に歯止めを、教育の機会均等をといったお題目で一時は盛り上がるだろうが、所詮付け焼刃はもろいものだと思うのだが･･･。

ついこのあいだまで「日本に塾はない」とおっしゃていた文科省も、「学校に塾」だなんて変れば変るものである。何？あれは文部省のときでしたア･･･なるほどね、文科省に変って科学的に発想されたわけか。

# 賛助会員一覧(順不同)

関東国際高等学校　TEL03-3376-2244
〒151-0071 東京都渋谷区本町3-2-2
村山　ｻﾝﾄﾞﾗｰ先生

江戸川学園取手中学高等学校　TEL0297-74-8771
〒302-0025 茨城県取手市西1-37-1
竹澤　賢司先生

十文字中学高等学校　TEL03-3918-0511
〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-10-33
卯木　幸男先生

東洋高等学校　TEL03-3291-3824
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-16
齋藤　元治先生

洗足学園大学付属第一高等学校
TEL03-3711-5751
〒152-0012 東京都目黒区洗足1-15-13
佐藤　慶一先生

桜丘中学高等学校　TEL03-3910-6161
〒114-8554 東京都北区滝野川1-51-12
品田　健先生

聖徳大学附属中高等学校　TEL047-392-8111
〒270-2223 千葉県松戸市秋山600
川並　芳純先生

麹町学園女子中高等学校　TEL03-3263-3014
〒102-0083 東京都千代田区麹町3-8
伊藤　暁先生

春日部共栄中学　TEL048-737-7611
〒334-0037 埼玉県春日部市上大増新田213
宇野　禎弘先生

大成高等学校　TEL0422-43-3196
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀6-7-5
森　保先生

東京学園高等学校　TEL03-3711-6641
〒153-0064 東京都目黒区下目黒6-12-25
須藤　勉先生

東京立正中学高等学校　TEL03-3312-1111
〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内2-41-15
藤井　教戒先生

八雲学園中学高等学校　TEL03-3717-1196
〒152-0023 東京都目黒区八雲　2-14-1
横山　孝治先生

関東第一高等学校　TEL03-3653-1541
〒132-0031 東京都江戸川区松島2-10-11
副田　康孝先生

武蔵野中学高等学校　TEL03-3910-0151
〒114-0024 東京都北区西ヶ原4-56-20
福澤　清一郎先生

神田女学園中高等学校　TEL03-3291-2447
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-3-6
後藤　久夫先生

和洋国府台女子中学高等学校　TEL047-371-1120
〒272-0834 千葉県市川市国分4-20-1
太田　陽太郎先生

東京文化中学高等学校　TEL03-3381-0196
〒164-8638 東京都中野区本町6-38-1
上前　善勝先生

英数学館中学高等学校　TEL084-941-4115
〒721-8502 広島県福山市引野町980-1
和田　淳先生

文京学院大学女子中学高等学校 TEL03-3946-5301
〒113-8667 東京都文京区本駒込6-18-3
大久保　幸夫先生

京北学園　TEL03-3941-6253
〒112-8607 東京都文京区白山5-28-25
実方　隆志先生

大森学園高等学校　TEL03-3762-7336
〒143-0015 東京都大田区大森3-2-12
河嶋　正先生

東京成徳大学中学高等学校　TEL03-3911-2786
〒114-8526　東京都北区豊島8-26-9
増澤　文徳先生

日本工業大学附属中学　TEL03-3467-2130
日本工業大学附属東京工業高等学校
〒153-8508　東京都目黒区駒場1-35-32
川村　文夫先生

青稜中学高等学校　TEL03-3782-1502
〒142-8550　東京都品川区二葉1-6-6
多々良　昭典先生

株式会社パイロットコーポレーション
TEL03-3538-3782
〒104-8304　東京都中央区京橋2-6-21
辻　豊様

株式会社教育企画ティーファイブ
TEL03-5479-7061
〒140-0001　東京都品川区北品川1-22-17
ニックハイム104号
山田　孝幸様

株式会社創開コミュニティー　TEL04-7164-6511
〒277-0005　千葉県柏市柏3-4-25　小澤ビル
小林　和光様

## 全日本私塾教育ネットワーク

本部事務局
〒173-0005　東京都板橋区仲宿53-10
ナカジュク内
TEL 03-3963-5572　FAX 03-3963-2529
Mail Address: jimukyoku@shijuku.net

理事長　谷村　志厚
〒270-2231　千葉県松戸市稔台63-21
ＡＩＭ学習セミナー内
TEL 047-368-2729　FAX 047-368-2189

私塾ネット広報編集委員会
〒120-0032　東京都足立区千住柳町14-12
青雲塾内